

令和 6 年(暦年)県工事における事故の発生状況等について(確定値)

1. 労働災害(令和 6 年暦年)

令和 6 年の休業 4 日以上又は全治 30 日以上の死傷者は、16 人となっており、死亡者は 0 人であった。

また、軽微な事故(休業 4 日未満及び全治 30 日未満)も含めた全負傷者数は 44 人で、令和 5 年と比較すると 4 人減少した。

宮城労働局管内における令和 6 年の県内全産業の死傷者数(休業 4 日以上(速報値))は、2,223 人で前年同期より 117 人減少し、うち建設業の死傷者数は 242 人で前年同期より 42 人減少となった。県内全産業の死亡者は 11 人で前年より 8 人減少し、うち建設業の死亡者は 3 人で前年より 1 名減少となった。

県発注工事における事故死傷者数

暦 年	合 計 (人)	労働災害 死亡者(人)	労働災害 負傷者(人)	軽微な事故 負傷者(人)
令和 2 年	62	0	14	48
令和 3 年	51	2	15	34
令和 4 年	63	0	27	36
令和 5 年	48	1	15	32
令和 6 年	44	0	16	28

2. 公衆災害(令和 6 年暦年)

令和 6 年の公衆災害は 63 件となり、令和 5 年の 50 件より 13 件増加した。その内訳は、死傷公衆災害 1 件、もらい事故 12 件、物損公衆災害 50 件となっている。震災前の約 20 数件に対し、依然として高い水準で推移している。

公衆災害としては、物損公衆災害(工事に伴う作業が起因して工事関係者以外の第三者の財産が被災)が 50 件と最も多く、内訳は、工事作業が起因して電柱・電線を切断させる事故(12 件)、自動車やバイクを損傷させる事故(12 件)、工事現場で埋設管を破損させる事故(11 件)、道路施設などの公共施設に接触する事故(9 件)、住宅や店舗の一部を損傷させる事故(3 件)、その他(3 件)となっている。

また、令和 6 年は、もらい事故の件数が 12 件と大幅に増加した。内訳としては、一般車両に追突される事故(8 件)、保安施設に一般車両が衝突する事故(4 件)となっている。

県注工事における公衆災害・もらい事故件数

暦 年	合計 (件)	死傷公衆災害 (件)	物損公衆災害 (件)	もらい事故 (件)
令和 2 年	90	0	86	4
令和 3 年	81	3	75	3
令和 4 年	64	3	56	5
令和 5 年	50	1	47	2
令和 6 年	63	1	50	12